

HORIBA

Explore the future



Gaiareport 2013

ガイアレポート2013 堀場製作所CSR報告書



社は「おもしろおかしく」

常に「やりがい」を持って仕事に取り組むことで、人生の一番良い時期を過ごす「会社での日常」を自らの力でおもしろおかしいものにして、健全で実り多い人生にしてほしい、という前向きな願いが込められています。そのために会社は「おもしろおかしく」働ける舞台を提供します。そこで社員が「おもしろおかしく」仕事をすれば、発想力や想像力が増すとともに、効率も上がり企業価値向上へとつながります。その結果、お客様、オーナー(株主)、サプライヤー、そして社会とWIN-WINの関係を構築することができます。

「おもしろおかしく」を社員が自己実現していくために、HORIBAでは「5つの“おもい”」を強く持ち、実践していくことを掲げています。

5つの “おもい”

1. 誰も思いつかないことをやりたい。
2. 技を究めたい。
3. 世界を舞台に仕事をしたい。
4. 自分の仕事や会社を誰かに伝えたい。
5. 人や地球の役に立ちたい。



One past, One future, One HORIBA
HORIBA

未来へつなぎたい、感謝と感動の60年。

HORIBAは2013年1月26日に創立60周年を迎えました。

60年というのは、人間で言うと還暦にあたります。原点を見つめなおし、新たなスタートを切る年として、これまでに受け継いだものを未来へ、世界へつなげていきたいという思いから、「TASUKI～おもいをつなぐ～」をテーマに、さまざまな活動に取り組みます。

今後も分析技術を通じて、世界の「エネルギー・健康・環境・安全」に貢献していきます。

シンボルマークのデザインについて

コーポレートカラーと5つの事業イメージカラーで配色された1本のタスキの“60”には「おもいをつなごう。先達から次世代へ、世界へ。」というメッセージが込められています。

社員一人ひとりの

自己実現を通じて

高品質な価値を創造する



株式会社 堀場製作所
代表取締役会長兼社長

堀場 厚

製品や技術を通して 社会に貢献する

HORIBAグループが提供する分析・計測技術は「エネルギー」「健康」「環境」「安全」といった側面から人々の生活を支えています。

例えば「エネルギー」において、エコカーに搭載するクリーンエンジンの開発では自動車排ガス測定装置や電気自動車の車体計測装置が、リチウムイオン二次電池や燃料電池の研究開発では材料解析などの先端研究に多様な光学分析装置が欠かせません。「健康」においては身近な病院やクリニックで血球計数装置やグルコース分析装置などが使われ、微量な血液の測定データで健康状態を迅速に把握し、医師の的確な診療や患者さんへのEBM(根拠に基づいた医療)の提供に役立ってい

ます。「環境」においては、PM2.5をはじめとする大気汚染や水質汚濁監視装置が世界の環境監視に広く使われているほか、放射線計測や各種産業における品質管理などで「安心・安全」に貢献しています。

そのほかにも半導体、LED(発光ダイオード)、有機ELや電子ペーパーなどのディスプレイ関連、太陽電池パネルなど、私たちの生活に欠かせない各種製品の製造工程においても非常に多くの機器が使われています。

このように技術や製品を通して人々の生活を支え、安心して持続可能な社会づくりに貢献できることは誇りであり、HORIBAグループのCSRの変わらぬ本質であると考えています。2013年も「『エネルギー・健康・環境・安全』」をキーワードに企業活動を推進し、快適で幸福な社会の実現に貢献

する」をHORIBAグループのCSR方針とし、ためまぬ努力を続けてまいります。

社員一人ひとりの 自己実現を通じて 高品質な価値を創造する

こうした基本方針のもと、2012年は各種エコーカー開発を支援する自動車試験施設を日本・中国・米国にて導入、リチウムイオン二次電池や燃料電池など最先端の研究開発に寄与する「ホリバヨーロッパリサーチセンター」をフランスに開設、インド・ブラジルにおける試薬工場の着工など、さまざまな取り組みを行いました。

また、事業の推進とあわせて世界基準のCSRを推進するべく、2011年4月に署名をした国連グローバル・コンパクトを基に人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、腐敗防止も徹底してまいります。2012年はグローバルでのCSR活動の一層の向上をめざし、海外のグループ会社のCSR活動状況の把握を具現化させました。このように、毎年ステップアップをし、より社会に必要とされる企業として限りなく成長してまいります。

これら事業の推進やCSR活動の根幹となる最も重要な財産を、私たちは「人財」と考えています。社は「おもしろおかしく」*1のもと、社員一人ひとりが「5つの“おもしろい”」*2を強く持ち自己実現していくことが、高品質な価値を生み出し、すべてのステークホルダーの皆様とWIN-WINの関係を構築することにつながるという信念のもと、人財の育成に一貫して投資を続けてまいりました。さらに世界に通じる人財を育成するべく、独自の

企業内大学HORIBA COLLEGE(ホリバ・カレッジ)を2009年に開校し、順調に講座数を重ねています。また新規採用においても多様な人財を確保するべくスペシャル人財登用に取り組むなど、独自の取り組みを続けています。今後も、チャレンジすることを評価する加点主義やオープン&フェアなHORIBA独自の人事制度を大切に、社員一人ひとりの自己実現を通じて、快適で幸福な社会の実現に貢献するよう努力してまいります。

さらなる飛躍をめざして

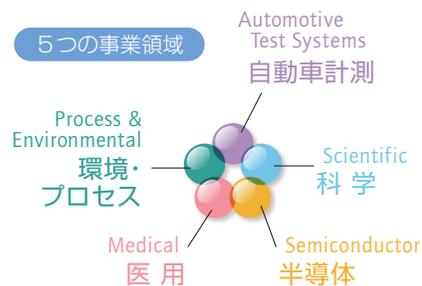
私たちは、おかげさまで2013年に創立60周年を迎えました。グループの中には200年近い歴史を持つ会社もあります。このような歴史ある企業がHORIBAグループに惹きつけられる、強力な引力を発揮し続けられるのも、社は「おもしろおかしく」に象徴されるユニークな企業文化をベースとした経営を一貫して行ってきたことによると考えています。この企業文化が人財、技術といった資産を培い、企業活動を推進し、快適で幸福な社会の実現に貢献しているものと考えます。

2013年も私たちは真摯に企業活動に取り組み、ステークホルダーの皆様とともに“HORIBA PREMIUM(ホリバ・プレミアム)”の実現、つまり、高品質な価値を創造し、社会的責任を全うしてまいります。今後とも私どもの活動をご覧いただき、ご理解の上、ご指導ご鞭撻をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

*1、*2「おもしろおかしく」、「5つの“おもしろい”」は1ページをご参照ください。

現在と未来を支える5つの事業

「分析」と「はかる」で持続可能な社会をめざす



安全で健康な暮らしの維持、省エネルギーや排出規制、新エネルギーの研究開発、持続可能なものづくり。これらは、分析・計測機器で正確なデータを把握することから始まります。HORIBAは、分析・計測機器の総合メーカーとして、“あらゆる物質を「分析」し「はかる」ことを可能にする”使命を全うすることで、地球環境や社会生活におけるさまざまな問題の本質解明と持続可能な社会の構築に貢献したいと考えています。

事業領域



地球環境に配慮した自動車開発をサポート

Automotive Test Systems

自動車計測

HORIBAは自動車排ガス測定装置など各国の環境規制にいち早く対応した製品で、より優れたエンジンの開発に貢献してきました。また、世界的に注目されている次世代エコカーの開発においても、HORIBAの駆動系テストシステムが活躍。そのほかにも自動車開発全体における各種試験装置、計測システム、ドライブレコーダーなど運行管理システムの開発・製造・販売を行い、地球環境に配慮した自動車の開発をサポートしています。



ドライブレインテストシステム



エンジン排ガス測定装置
MEXA-ONE



地球環境と新エネルギー産業の発展を支える計測機器を世界へ供給

Process & Environmental

環境・プロセス

世界の環境基準や環境規制を踏まえ、HORIBAは大気・水質・土壌に幅広く対応する分析・計測機器をグローバルに供給しています。電力、鉄鋼、化学、石油精製プラント、重化学工業でのガス計測や工場排水監視に、また医療用水、半導体産業での純水管理や医薬品・食品・化粧品分野の各種水質の常時監視・制御に重要な役割を担っています。環境負荷低減とプロセス監視であらゆる産業の発展を支えています。



ポータブルガス分析計



自動COD^{*}測定装置
*COD:化学的酸素要求量



診療を受ける人の立場に立ち
知りたい項目をその場ですばやく測定

Medical

医用

臨床現場において検査の結果に基づいて診断・治療を行うために必要なのは、知りたい項目を今すぐ測りたいというニーズに応えられる、扱いやすい医用分析機器です。自動血球計数装置や血糖値を測るグルコース分析装置などが、個人医院をはじめ検査センター、病院などで活躍。医師や看護師が簡単に操作でき、わずかな検体量ですばやく測定が可能のため、患者さんに対して負担が少なく、迅速・的確に治療することができます。



グルコース分析装置



自動血球計数CRP^{*}測定装置
*CRP:C-反応性蛋白(たんぱく)



半導体製造プロセスを支え
豊かで便利な社会の実現に貢献

Semiconductor

半導体

現代のIT産業を支える半導体の製造プロセスでは、多くの計測・制御装置によって工程ごとに厳密な検査・制御が行われています。HORIBAは半導体製造プロセスに欠かせない、ガス流量制御、薬液コントロール、気化装置、圧力計測などで製造工程をサポート。また、ハイビジョンテレビや携帯電話などに用いられる液晶モニター、有機ELなどのフラットパネルディスプレイ製造分野、太陽電池やLED(発光ダイオード)の製造プロセスもサポートしています。



マスフローコントローラー



光ファイバー式薬液濃度モニター



ナノレベルの測定技術で
多彩なデータ解析のソリューションを提供

Scientific

科学

基礎研究分野で求められる微小領域の分析では、ナノレベルの分子や原子の動きに目が向けられています。多彩なデータ解析のソリューションを提供することが、未知の領域へ挑む最先端研究者を支援し、その成果から未来のハイテク製品や新素材が生み出されることとなります。さらに研究開発分野以外でも、薬品などのpH測定や、電子部品の異物検査や不良解析、犯罪捜査、考古学分野などで、HORIBAの分析装置が幅広く活用されています。



卓上型pH・水質分析計
LAQUA

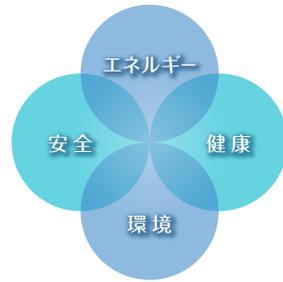


X線分析顕微鏡

社会とつながる分析・計測技術

確かな技術で社会やお客様のニーズに応える

HORIBAの分析・計測技術は、あらゆる場面で私たちの生活に関わっています。HORIBAは、お客様からのご要望に応える製品・サービスを提供することにより、持続可能な社会の構築や人々のQOL(クオリティオブライフ)向上に貢献することができますと考えます。



5つの事業(自動車計測、環境・プロセス、医用、半導体、科学)に展開しているHORIBAは「エネルギー・健康・環境・安全」と深く関わっています。HORIBAは、あらゆる産業分野の発展において必要とされる分析・計測技術を提供することで、「快適で持続可能な社会」の実現をめざしています。

新素材・新エネルギーの研究開発

新素材	カーボンナノ材料やグラフェンなどの新素材の研究開発
有機EL (有機エレクトロニクス)	次世代の薄型ディスプレイとして期待される有機ELの研究開発
二次電池	正極・負極・電解液・セパレータなど、二次電池の各パーツの研究開発
クリーンエネルギー	次世代エネルギーとして期待がかかる自然エネルギーの研究開発

製造・プロセス現場での生産性向上

半導体デバイス	ガス制御、薬液管理、異物検査などによる半導体製造ラインの歩留まり向上
FPD (フラットパネル)	大型ガラス基板、有機ELなど、次世代FPDの製造工程の管理・検査
太陽光発電パネル	太陽電池製造における効率的で高度なプロセス管理システムの構築
プリント基板	鉛フリープリント基板の高精度な検査
塗料・塗装	インク・ペンキ・粉末塗料などの管理や塗装面の光沢度の検査
石油化学プラント	爆発性ガスが存在する恐れのある環境での安全な工程管理

次世代自動車の研究開発

超・低排出ガス	最新規制対応車から排出される低濃度排ガスの高精度な計測
燃費	燃費の良い自動車の研究開発のサポート
温室効果ガス	自動車から排出される温室効果ガス(CO ₂ ・CH ₄ ・N ₂ O)量の把握
代替燃料	ガソリン・ディーゼルに代わる新燃料の研究・評価
エンジン・駆動系・ブレーキ	自動車主要部品のシミュレーション試験環境の構築
電気モーター	電気自動車・ハイブリッド車に欠かせない電気モーターの性能評価
エコドライブ	デジタル式タコグラフの数値による運転状況の把握、省エネ運転の推進

品質管理

電気製品	電子部品内部の異物、故障の解析
化粧品	ファンデーションや乳液の粒子管理
食品	野菜、肉、米、食用油などの品質検査
製薬	純度の高い製薬用水の高精度な分析

人の健康・安全

食の安全	生産現場での受け入れ、加工前・出荷前検査や、輸入食品の水際検査
飲料水	上水施設などでの検査項目(濁度・色度・残留塩素・水圧)の自動監視
医療検査	少量のサンプルによる患者負担の少ない、迅速な血液検査の実現
安全運転	事故の原因解明や状況分析による安全運転の浸透
環境放射線測定	身の回り(または生活環境)の目に見えない放射線を数値化して把握

地球環境保全

大気汚染監視	大気状態の連続測定によるPM2.5や光化学スモッグなどの監視
河川・湖沼・海洋の水質監視	河川・湖沼・海洋など、自然環境での水質監視
工場排出規制	工場から排出される排ガス・排水の監視
水質総量規制	工場から排出される放流水の閉鎖性水域での水質監視
有害物質	有害元素分析によるRoHS規制などの各国規制への対応
化学肥料	化学肥料による土壌汚染の監視
農業・生活用水	農業用水や公共用水の水質管理

農業・漁業環境の改善

生産性向上	養殖場、活魚運搬、水耕栽培での水質管理
安心・安全	農作物中の硝酸イオン濃度や残留農薬検査による農作物の安全性確保

考古学研究

文化財保護	文化財・貴重品などの歴史的資料の非破壊分析
-------	-----------------------

科学捜査

鑑識	わずかな痕跡の分析による、事件解決に向けた手がかりの発見
----	------------------------------

動物の健康

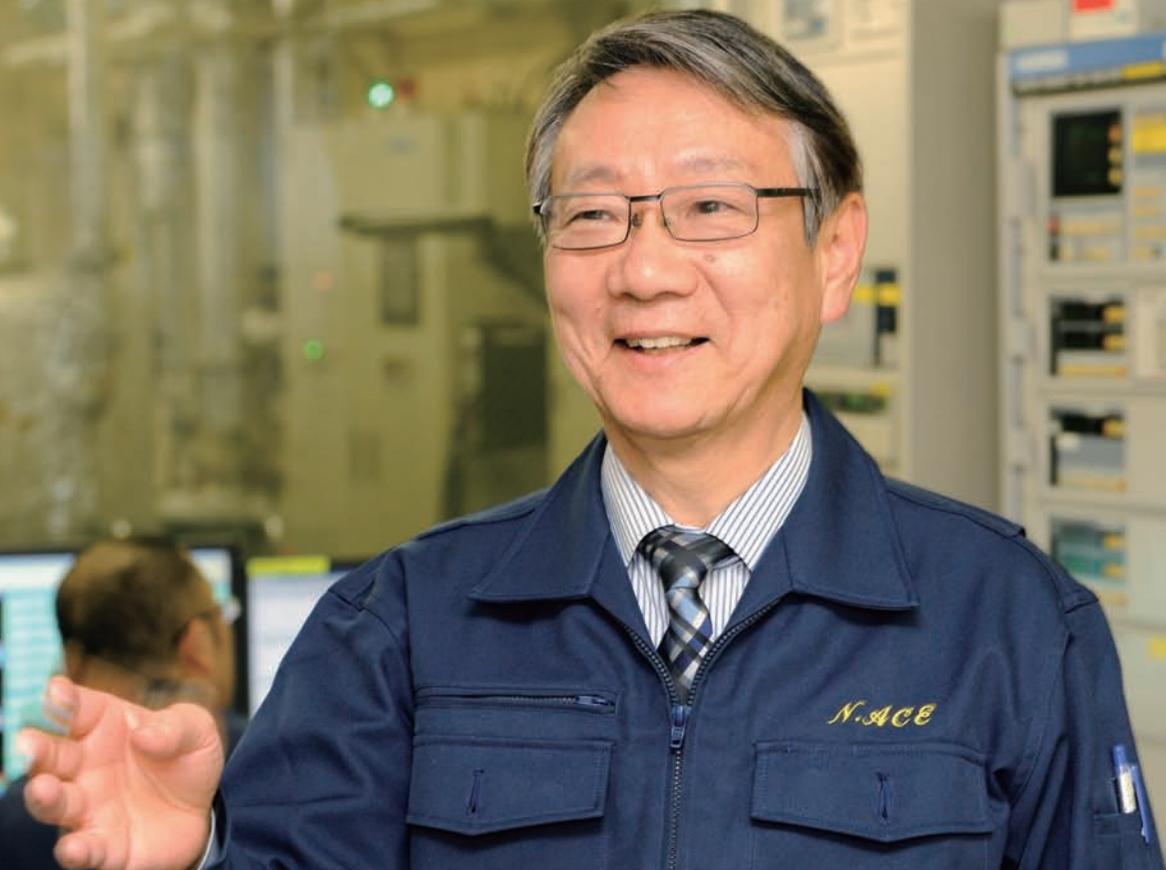
動物病院	微量の血液採取による、動物に負担の少ない迅速な血液検査の実現
------	--------------------------------

青柳 友三 氏

株式会社 新エシイー 代表取締役社長
工学博士

未来のエコカーを支える先端テクノロジー NOxも黒煙も大幅に低減する スーパークリーンディーゼルを研究開発

「排出ガスが問題」。国内ではそんなイメージを持つ人も少なくないディーゼルエンジン。しかし、欧州ではディーゼル車がエコカーとして高い人気を得ています。本来、ディーゼルエンジンはどんな可能性を持っているのか。「スーパークリーンディーゼルエンジン」の研究開発など、ディーゼルエンジンのさらなるクリーン化に取り組む株式会社 新エシイーの青柳友三社長に聞きました。



熱効率、環境性が高い ディーゼルエンジン

— 欧州などではディーゼルエンジンを搭載した自動車の割合が高いと聞きます。なぜ、日本と欧州で大きな差があるのでしょうか？

欧州の乗用車登録台数のうちディーゼル車は50%超。フランスなど70%を超える国もあります。一方、日本の新車販売台数に占めるその割合は2000年代に10%台となるなど極めて低水準。日本では、ディーゼル車に対する誤った認識が広がっているように思います。私は大学で講義をすることもあるのですが、学生の9割以上が「ディーゼルエンジンの排出ガスは、とても環境に悪い」というイメージを持っていますね。

理由の一つには、排出ガス規制が厳しくなかった頃の古いバスやトラックが黒煙を吐き出しながら走っている状況があります。価格が高いこれらの車は、寿命も長く、数十年前の車両がまだ現役という場合もある。また、1990年代末の東京都の「ディーゼル車NO_x作戦」などで、黒い煤が大きく取り上げられたこ

とも、ディーゼルエンジンのイメージを固定化しました。

— そもそもディーゼルエンジンとガソリンエンジンは何が違うのでしょうか？

まず燃料が違います。ガソリンエンジンは、石油の中でもとても上等な揮発性の高い燃料、つまりガソリンを使用します。一方、ディーゼルエンジンは揮発性の低い軽油を使う。またガソリンエンジンが、「空気と燃料の混合気」を点火プラグで燃焼させるのに対し、ディーゼルエンジンは圧縮した「高温高圧の空気」の中に、高圧力で燃料を噴射して自己着火燃焼させる。その仕組みの違いから、ディーゼルエンジンでは空気を非常に高いレベルまで圧縮するのが特徴で、実はそれが効率の良さにもつながります。なぜなら気体の圧縮比が高ければ、エンジン内で燃焼時に得られる爆発力が大きくなる。そのため、より多くのエネルギーを得られるわけです。一般にこれを「熱効率が高い」と表現します。

ディーゼルエンジンは熱効率が高く、しかも燃料である軽油の価格は安い。この両方の効果により、自動

車の重量が同じならば、燃料費はガソリン車よりディーゼル車の方が30%ほど少なくなります。また消費する燃料が少ないということは、CO₂(二酸化炭素)の発生量も少ないということ。それが地球温暖化の防止に貢献するというので、欧州ではディーゼル車が歓迎されているのです。

— 高効率で環境への負荷が小さい。エンジンとしてはとても優秀ですね。

そのとおりです。では課題はどこにあるか。やはり“排出ガス”の対策がディーゼルエンジンの長年の懸案でした。具体的には大気汚染の原因となる「NO_x(窒素酸化物)」と、黒煙の正体である「PM(粒子状物質)」の低減です。ガソリンエンジンでは、三元触媒により、NO_xなどの有害成分を劇的に低減することができました。しかしディーゼルエンジンの場合、排出ガス中に多くの酸素を含んでいる関係から、原理的にこれが使えなかった。そのためコモンレール、EGR(排出ガス再循環システム)など新たな技術を取り入れたディーゼルエンジンを生み出すことなどで、着実にNO_xと黒煙を低下させてきました。その成果

が、現在のクリーンディーゼルエンジンで、ガソリンエンジンに引けをとらない環境性能を有しています。

エンジニアの理論を 分析・計測装置が証明する

— そうした中、青柳社長の新エシイーではさらなる環境性能を追求したスーパークリーンディーゼルエンジンを研究開発されています。

当社は1992年に「自動車用ディーゼルエンジンの排出ガス低減と熱効率の向上」を目的に、ディーゼルエンジンメーカーとその部品メーカーの出資により設立された研究開発会社です。そこで確立した世界最高水準の研究成果を踏まえ、2002年にスタート



◀ 新エシイーで研究開発するスーパークリーンディーゼルエンジンのパーツ



した国土交通省の「次世代低公害車プロジェクト」に参画。その一環として、スーパークリーンディーゼルエンジンの研究開発にチャレンジしました。目標は、NOxを当時の排出ガス規制値の20分の1に下げ、黒煙の原因となるPMも25分の1に下げるという非常に意欲的なもの。これは次代の規制値をも大きく上回る数値で、まさにエベレストに登るような挑戦でした。

— 研究開発に取り組まれた背景や技術的なポイントについて教えてください。

一言でいえば、地球にとって排出ガスはクリーンであればあるほどいい。これが、研究開発に取り組んだ理由です。世界各国で規制が強化される中、日本の技術を世界に売り込むチャンスにもなると考えました。

実は排出ガスのクリーン化については、燃焼温度が高いとNOxが発生し、逆に低いとPMが発生するという、相反するやっかいな課題がありました。少々専門的になりますが、スーパークリーンディーゼルの研究開発では、まず新たに“燃焼コンセプト”として、①希薄燃焼 ②高過給 ③高圧噴射 ④高BMEP(エン



◀ 分析・計測装置は研究にとってなくてはならない存在

ジン出力) ⑤広域多量EGRの5つを設定。より具体的には、排気エネルギーを利用する「ターボインタークーラー方式」と「広域多量EGR」という最新技術を組み合わせることで、NOxとPMの発生を同時に削減することに取り組みました。おかげさまで、プロジェクトを通じてさまざまな成果を得ることができ、それらは現在、各自動車メーカーによって実用化が進められています。

— 研究開発においては、多様な分析・計測装置を利用されています。それは、エンジニアの方々にとってどんな存在なのでしょう。

なくてはならないパートナーです。支え合うという関係性から考えると、エンジニアと計測装置は“夫婦”といってもいいかもしれません。

当社では各種計測装置により、排出ガスや動力性能、燃費性能をはじめ、多種多様な要素を評価していますが、現場において、それは私たちの理論や仮説を“証明”してくれる役割を担っています。例えば、EGRの新システムを研究開発しているときもそうでした。設計上、製作したディーゼルエンジンはNOxを10分の1以上低減できる計算になっている。これは非常に画期的です。しかし言うまでもなく、大事なのは「そういうエンジンを理論上は製作できる」ということではなく、「実際の排出ガスがどれだけきれいになるか」ということ。そこでは必ず、実験をして、排出されるガスの成分を計測することが求められます。実際にこのときは、思ったとおりの数値がしっかりと計測され、本当に嬉しかったことを今でもはっきり覚えています。

計測装置というのは、研究開発において前面に出てくる存在ではありません。しかし言ったとおり、まさに不可欠なもので、それが示す結果が新たな開発コンセプトを生み出すこともある。ディーゼルエン

ジンの研究開発における排出ガスの計測システムとしては、現在、当社にあるものが世界一だと自負しています。

— 分析・計測装置メーカーに対して、今後の期待や要望があればお聞かせください。

計測システムというものは、当社のニーズと個々の装置の機能をすり合わせながら構築していくものですから、当然メーカー各社の皆さんとのコミュニケーションが重要になってきます。今後もより緻密な連携をお願いしたいですね。特にエンジンの排出ガスの計測については、その試験方法も変化してきており、最近ではトランジェント試験といって、実際に街中を走っているのと同じような条件でのテストが求められるようになってきています。試験が変われば、計測システムも刷新する必要があります。より効率的で、使いやすい装置の開発を期待していますし、私たちとしてもどんどん具体的な要望を出していきたいと思っています。

激しい議論があつてこそ 新しいものが生み出せる

— 長くディーゼルエンジンの研究開発に携わっていらっしゃると思います。その中で、心がけていることはありますか。

一般的に工学の世界では、ある部分は非常に優れているが、ほかの部分に問題があるといった仕組みはなかなか受け入れられません。ディーゼルエンジンでいえば、とにかくNOxの値は抜群に低い、というだけではダメ。PMの量も少なくなければならないし、当然熱効率についても高い水準が求められます。そうしたバランスが取れて初めて、実用化されるのです。技術というのは基本的に道具ですから、使われてこそ価値が出る。その意味では、全体的な調和や整合性といったものを研究開発では重視していますね。

また個人的な研究スタイルについていえば、「集中力」を大事にしています。もともと物事にのめり込むタイプで、周りからはよく「頑固」と言われますが、自分で「これだ」と思ったことは、とことん追究します。

— 「頑固」だと周囲の人たちとぶつかることもあるのでは？

よくありますよ(笑)。大きなプロジェクトに着手するときは、まず全員参加で徹底的に議論するのが、私のやり方です。端から見ると、口げんかに見えるかも



◀ 歴史と権威のある米国自動車技術会SAE(Society of Automotive Engineers)から、長年のディーゼル排出ガス低減の研究業績により、栄えあるSAE Fellowを受賞(2005年度)

しませんが、それくらい激しい議論をやらないと“いいもの”は出てこない。今の若い人は、議論を避ける傾向があるように感じます。しかし自分の思っていることを互いに言い合う中から、新たな着眼点が見つかることもあるし、信頼感も生まれてくる。よほど強いモチベーションがないと、“最高峰への登頂”など実現できませんから、エンジニア同士で厳しいやりとりになるのは、当然のことだと思っています。

— 最後に今後の目標や夢をお願いします。

機械工学、特にエンジンで一番重要なのは“熱効率”です。だとすれば、今後もディーゼルエンジンが内燃機関の本流であり続けることは間違いない。私はそう考えています。ハイブリッドシステムはもとより、ターボコンパウンド、廃熱を動力や電気エネルギーに換えるランキンサイクルや熱電素子など、まだまだ魅力的な関連技術がたくさんありますから、これからもさらなる熱効率の向上をめざして、研究開発に取り組んでいくつもりです。

車が好きな欧州の研究者仲間と言わせると、「ディーゼル車は一度乗るともう離れられない」とのこと。やはり最大の魅力は動力性能。低速からの加速感が、格段に優れている。静粛性も、昔とは段違いにいい。当社の技術でさらなるクリーン化を実現し、未来のエコカー開発に貢献できれば嬉しいですね。



あおやぎ ゆうそう
青柳 友三氏
株式会社 新エィシーイー 代表取締役社長
工学博士

1971年東京工業大学卒業後、日野自動車(株)に入社。エンジン研究部で大型ディーゼルエンジンの低排ガス・低燃費技術の研究・開発に従事。80年東京工業大学大学院修了。98年10月(株)新エィシーイー常務取締役研究部長に就任。2011年6月から現職。06年、07年自動車技術会論文賞。機械学会Fellow、自動車技術会Fellow、SAE Fellow

CSRを実践するために

創業時からのスピリットを胸に活動を推進する

すべてのステークホルダーの皆様の立場を尊重し、優れた製品・サービスの提供を通じて持続可能な社会や豊かな未来の構築に貢献するためのCSR活動を推進します。そのため実効ある社内体制の整備を行うとともに、法令・定款その他の社会的規範を遵守し企業倫理の徹底を図ります。

経営の基盤

実効ある社内体制の整備と企業倫理の徹底



国連グローバル・コンパクトに署名



HORIBAグループは、国際連合が提唱する人権・労働基準・環境・腐敗防止に関する普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に参加企業として正式加盟しています。

私たちが企業活動を行っていく上で遵守すべき項目を定めた「HORIBAコーポレートフィロソフィー」「倫理綱領」および統合マネジメントシステムにおいて、HORIBAグループは国連グローバル・コンパクトの10原則に対応しており、この定着化に注力しています。2012年は海外子会社のCSR活動状況の把握を具現化させました。

毎年ステップアップをし、より社会に必要とされる企業として成長していきます。

国連グローバル・コンパクトの10原則

人 権	原則 1	人権擁護の支持と尊重
	原則 2	人権侵害への非加担
労働基準	原則 3	組合結成と団体交渉権の実効化
	原則 4	強制労働の排除
	原則 5	児童労働の実効的な排除
	原則 6	雇用と職業の差別撤廃
環 境	原則 7	環境問題の予防的アプローチ
	原則 8	環境に対する責任のイニシアティブ
	原則 9	環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則 10	強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

CSR方針と重点課題

HORIBAグループ CSR方針

事業を通じてCSR活動を推進する

「エネルギー・健康・環境・安全」をキーワードに企業活動を推進し、「快適で幸福な社会」の実現に貢献する。

2012年の重点課題

HORIBA PREMIUM ~高品質な価値の創造~

1. ステークホルダーとのコミュニケーションの増加
2. IMS*目標達成
3. コンプライアンスの遵守徹底

*14ページをご参照ください。

CSR活動推進体制

HORIBAグループでは、2005年4月に「HORIBAグループCSR推進委員会」を設立し、国内グループ全体でCSR活動に取り組んでいます。同委員会では、グループ全体のCSR方針、重点課題を決定し、ここでの承認事項、審議内容は各社のCSR推進委員会を通じて、全職場へ周知しています。



CSR推進委員会

- HORIBAグループCSR推進委員会で決定された方針・内容の実施検討
- 教育・環境・地域社会での社会貢献活動

コンプライアンス委員会

- コンプライアンスに関する啓蒙や違法行為の防止と早期発見・是正勧告
- 内部通報制度(社外弁護士相談窓口、内部通報メールシステム)
- 管理職へのコンプライアンス関連セミナー開催

コーポレートガバナンス・内部統制

(株)堀場製作所は、「オープン&フェア」を基本理念に、経営の透明性追求や企業価値の最大化をめざしています。コーポレートガバナンス、内部統制の強化については、次のような組織・体制を整備し、取り組んでいます。

社外取締役 経営判断の質・透明性の向上、業務執行監視機能の強化。

監査役会 監査役3名(うち社外監査役2名)が、取締役会における業務執行の監査・モニタリングを実施。

独立役員 社外役員3名は、証券取引所の定める独立役員に指定。

内部監査 内部監査部門が法令・定款や社内ルールに基づき、適法かつ公正に業務活動が行われているかを検証。

内部統制 「内部統制システムの構築に関する基本方針」を制定し、法令遵守とリスク管理の体制を構築。

統合マネジメントシステム(IMS)*

HORIBAグループは、一般財団法人日本品質保証機構(JQA)からグループIMSとしての「JQA統合マネジメントシステム運用証明書(JQA-IG0001)」を2011年4月に取得し運用しています。海外グループ会社においても、主要生産拠点で品質ISO9001および環境ISO14001の認証取得を促進しています。

また、(株)堀場製作所 京都分析アプリケーションセンターは、公益財団法人日本適合性認定協会(JAB)から「ISO/IEC 17025:2005(RTL00880)(化学試験)」の試験所としての認定を2001年6月に取得し、グループ会社の(株)堀場テクノサービス本社CS部は、独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)から「ISO/IEC 17025:2005(ASNITE 0033C)排出ガス測定装置」の校正事業者としての認定を2009年8月に取得しています。

*統合マネジメントシステム(IMS: Integrated Management System)は、品質ISO9001、環境ISO14001、労働安全衛生OHSAS18001を統合したマネジメントシステムです。また、(株)堀場製作所および(株)堀場エステックでは、IMSに医療機器のための品質マネジメントシステムISO13485を加え、2013年3月には両社で統合し、「JQAマネジメントシステム登録証(JQA-MD0010)」を取得しています。



CSR活動のテーマと方針

日々の業務を通じて社会的責任を果たす



CSR活動の詳細なデータは、ウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.horiba.com/jp/gaiareport/>

HORIBA Gaiareport

検索

テーマ	活動項目	活動方針	主な活動	グローバルコンパクト原則	関連する社内規定	WEB掲載
お客様とともに	顧客満足度の向上	私たちは、常に優れた製品と適切なサービスを最適納期で提供することを通じて、お客様の満足と信頼を得られるよう努めます。また、公正かつ自由な価格競争を通じて社会に貢献するよう努めます。	デザインレビュー、変更管理強化、新製品評価、部品の信頼性評価、カスタマーサポートセンターでのお問い合わせ対応、(株)堀場テクノサービスによるサービス体制、社内技術展、技能オリンピック、PQIコンペティション、業務改善活動		<ul style="list-style-type: none"> ■ コーポレートフィロソフィー「顧客対応」 ■ 倫理綱領[行動基準] 3、4、6 ■ IMS方針 1、2 	A-d B
オーナーとともに	オーナー・投資家への責任	私たちは、オーナー(株主)の皆様に対して適正な利益の分配を行い、投資家・利害関係者に対し定期的に経営状況を報告し、経営の透明性を維持します。	経営陣による機関投資家向け決算説明会、経営陣による海外投資家訪問(欧州、米州、アジア)、電話説明会、面談、展示会での投資家向けブースツアー、個人投資家向け説明会		<ul style="list-style-type: none"> ■ コーポレートフィロソフィー「投資への責任」 ■ 倫理綱領[行動基準] 14 	C
サプライヤーとともに	生産協力会社とのパートナーシップ構築	私たちは、事業活動が各分野の取引先の協力と支援のもとに成り立っていることを自覚し、取引先の皆様と信頼関係を構築、相互に切磋琢磨します。	生産協力会社会議、製品勉強会、工場見学会、品質勉強会、技能オリンピック、QC活動大会、改善活動報告会、技術研究会	5、8、10	<ul style="list-style-type: none"> ■ 倫理綱領[行動憲章] 3 ■ 倫理綱領[行動基準] 2、11、16 ■ IMS方針 2 	D
社員とともに	社員の 人権・人格・個性の尊重	私たちは、社員一人ひとりを大切な「人材」と考え、社員の人格・個性を尊重しています。社員とのコミュニケーションと教育の機会を積極的に設け、社員一人ひとりがその可能性を最大限に発揮できるように人材育成に努めるとともに、オープンでフェアな労働環境を提供します。	女性管理職の登用、短時間社員制度、在宅勤務制度、外国人新卒採用、障がい者採用、海外研修生派遣、社員の家族による職場見学会、次世代育成支援、社員誕生会	1、2、3、4、 5、6	<ul style="list-style-type: none"> ■ コーポレートフィロソフィー「従業員」 ■ 倫理綱領[行動憲章] 4 ■ 倫理綱領[行動基準] 18、19 	E-a
	社員の安全・健康・ 快適職場の確保	私たちは、すべての事業活動のプロセスにおいて、人の安全・健康の確保を最優先に考え、社員への意識啓蒙や個別のアプローチを積極的に行い、こころとからだの健康づくりを推進します。	経営トップによる職場安全パトロール、健康管理室の設置、各種健康診断・保健指導、産婦人科医によるセミナー開催、社員食堂による地産地消の推進、安全・防犯講習会、自衛消防隊による訓練		<ul style="list-style-type: none"> ■ コーポレートフィロソフィー「従業員」 ■ 倫理綱領[行動憲章] 4 ■ 倫理綱領[行動基準] 20、21 ■ IMS方針 3 	E-b
社会とともに	環境問題の予防・改善	私たちは、関連法規を遵守し、統合マネジメントシステムにより環境の改善・保護のための自主基準を設け、最大の努力を払っています。また、最良の環境保全システムの取得を推奨しています。	新素材・新エネルギー・次世代自動車研究開発向け機器や環境監視システムなどの普及、生産活動における省資源・省エネルギー化、排水監視、化学物質管理、廃棄物の削減	7、8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 倫理綱領[行動憲章] 7 ■ 倫理綱領[行動基準] 13、14 ■ IMS方針 2 	F-a
	製品における環境配慮	私たちは、長寿命、省エネルギー、再資源化、分解性、処理容易性など、ライフサイクルを考慮した製品を社会に送り出すために、社内基準をクリアした製品を環境適合製品と位置づけ、新製品開発時に適用しています。	環境適合設計の評価(減量化、長寿命化、再資源化、分解性、処理容易性、環境安全性、省エネルギー、情報提供)	9	<ul style="list-style-type: none"> ■ 倫理綱領[行動憲章] 7 ■ IMS方針 2 	F-b
	地域社会との対話	私たちは、地域社会との交流を主体的・積極的に行い、密接な連携と協調を図ることで、良き企業市民としての役割を果たします。	環境出前授業の実施、地域イベントへの参加、インターンシップ生の受け入れ、地域環境保全活動、東日本大震災への対応、チャリティー活動、通勤路ごみ調査		<ul style="list-style-type: none"> ■ 倫理綱領[行動憲章] 6 	F-c
	独自性のある情報発信	私たちは、分析・計測業界の発展に向けたリーダーシップを発揮するとともに、分析・計測機器メーカーならではの視点から、分析・地球環境への関心を呼び起こすメッセージを広く社会へ発信します。	新聞・雑誌等への企業広告、環境・自然・宇宙・科学情報サイト「Gaiapress(ガイアプレス)」		<ul style="list-style-type: none"> ■ 倫理綱領[行動憲章] 5、6、7 ■ 倫理綱領[行動基準] 6、13、14 ■ IMS方針 2 	F-d

2012年の主な活動

社は「おもしろおかしく」のもと、CSR活動の質の向上をめざす

私たちは、「おもしろおかしく」の社是のもとオープンでフェアな企業文化を醸成し、ステークホルダーの皆様とともに良好なパートナーシップ構築に努め、CSR活動の質の向上をめざします。



CSR活動の詳細なデータは、ウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.horiba.com/jp/gaiareport/>

HORIBA Gaiareport

検索

お客様とともに

顧客満足度の向上

WEB A-d, B

活動方針

私たちは、常に優れた製品と適切なサービスを最速納期で提供することを通じて、お客様の満足と信頼を得られるよう努めます。また、公正かつ自由な価格競争を通じて社会に貢献するよう努めます。

活動の内容

「品質の向上」を重要な課題としてとらえ、設計段階でのデザインレビュー、変更管理の強化、実地での新製品評価、部品の信頼性評価などを実施し、お客様のニーズにお応えできる製品品質を追求するとともに、品質コスト(予防・評価・損失)のバランス配分・圧縮に取り組みました。また、設計・生産・購買の各プロセスにおいて、生産協力会社とも情報交換を行い、製品不良の低減につなげる活動を実施しました。

主な活動

- デザインレビュー ■ 変更管理強化 ■ 新製品評価 ■ 部品の信頼性評価 ■ 業務改善活動
- カスタマーサポートセンターでのお問い合わせ対応
- (株)堀場テクノサービスによるサービス体制 ■ 社内技術展 ■ 技能オリンピック
- PQI*コンペティション *Product Quality Improvement: 製品の品質改善

TOPICS ● 福島に営業・サービス拠点を開設

東日本大震災後、放射線モニタリングや除染作業の確認のため、各自治体などで環境放射線モニター PAシリーズが活用されています。2013年3月に、福島にセールスオフィスとサービスステーションを開設。環境放射線モニターを短時間で正確に校正できるよう、設備を自動化しました。いつでも安心して環境放射線モニターをお使いいただけるよう、万全のサポート体制で対応します。



オーナーとともに

オーナー・投資家への責任

WEB C

活動方針

私たちは、オーナー(株主)の皆様に対して適正な利益の分配を行い、投資家・利害関係者に対し定期的に経営状況を報告し、経営の透明性を維持します。

活動の内容

年間300回以上の面談や、展示会での製品説明会などを実施し、HORIBAの経営理念や戦略、業績などの詳細な情報提供を通して双方向コミュニケーションに努めており、2011年には日本IR協議会が選定する「IR優良企業賞」を受賞しました。2012年は、経営陣による機関投資家向け決算説明会、主要国内展示会での投資家向けブースツアー、社長によるアメリカ・イギリスなど海外投資家訪問などを実施し、投資家の海外シフトが進む中で、よりニーズに合ったIR活動となるよう工夫しています。

主な活動

- 経営陣による機関投資家向け決算説明会 ■ 経営陣による海外投資家訪問(欧州、米州、アジア)
- 電話説明会 ■ 面談 ■ 展示会での投資家向けブースツアー ■ 個人投資家向け説明会

TOPICS ● 配当政策の変更 ~連結利益を基準とした還元政策へ~

2012年12月期までは、(株)堀場製作所個別純利益の30%を配当としてオーナーの皆様へ還元する配当政策を採用してきましたが、2013年12月期以降は、企業規模拡大や国内外のグループ会社収益力向上などに対応し、HORIBAグループ連結純利益の30%を目処に、「株主総還元額」(配当金額+自社株式取得金額)としてオーナーの皆様への配分に充てる方針に変更しました。

サプライヤーとともに

生産協力会社とのパートナーシップ構築

WEB D

グローバルコンパクト原則
>> 5, 8, 10

倫理綱領において、公正、透明、自由な競争を行うことを表明し、商取引において不当な利益の供与と獲得を厳に戒めています。また世界の環境規制に応じて調達先、生産協力会社とともに適正な使用を徹底しています。

活動方針

私たちは、事業活動が各分野の取引先の協力と支援のもとに成り立っていることを自覚し、取引先の皆様と信頼関係を構築、相互に切磋琢磨します。

活動の内容

部材・設備を購入するにあたっては、日本国内・海外各国の法令および社会規範を遵守し、取引先の選定に際しては品質・価格・納期・環境対応・CSR活動などの指標を客観的に評価することで公正かつ公平な取引が行われるよう努めています。また取引先に対し、反社会的勢力との関係を排除する旨の覚書締結や紛争鉱物への対応要請、部材の納品時には繰り返し使用できる専用ケースを奨励するなど、コンプライアンスや環境負荷低減を重視した購買活動を実施しています。

主な活動

- 生産協力会社会議 ■ 製品勉強会 ■ 工場見学会 ■ 品質勉強会 ■ 技能オリンピック
- QC活動大会 ■ 改善活動報告会 ■ 技術研究会

TOPICS ● HORIBAグループ生産協力会社55周年

HORIBAでは部材の調達先である取引先を「生産協力会社」と称し、互いに協力し合い、共に成長する仲間であると考えています。その協力関係は、材料の調達先だけでなく、組立を委託している組立会社とも強く結ばれています。国内グループ会社の生産協力会社で「グループ堀場洛楽会」を組織し、今年で55周年を迎えました。これからも「共進・共鳴・共生」をモットーとして、相互に啓発し合っていきます。



HORIBAグループ生産協力会社会議
優良企業表彰受賞企業の皆様と

社員とともに

社員の人権・人格・個性の尊重



グローバル・コンパクト原則
>> 1,2,3,4,5,6

倫理綱領において、人権の尊重とあらゆる差別的取扱いを禁止し、社員の人権・個性・プライバシーを尊重することを定めています。また、組合との協議会を定期的に開催しています。

活動方針

私たちは、社員一人ひとりを大切な「人材」と考え、社員の人権・個性を尊重しています。社員とのコミュニケーションと教育の機会を積極的に設け、社員一人ひとりがその可能性を最大限に発揮できるように人材育成に努めるとともに、オープンでフェアな労働環境を提供します。

活動の内容

「人材」である社員の可能性を広げるため、さまざまな研修や人事制度を実施しています。270の教育プログラムで専門教育を効果的、体系的に実施するHORIBA COLLEGEを継続しており、2012年は、延べ2,700名を超える社員が参加しました。また、2012年は国内グループ会社から19名を海外研修生として各国のHORIBAグループ拠点に送り出しました。さらに、社員の家庭環境の変化に対応し、ワークライフバランスの維持・向上を支援するため「短時間社員制度」「在宅勤務制度」などを導入しています。2012年には国内HORIBAグループにおいて33名の女性と5名の男性が育児休暇を取得しました。また、障がい者や新卒外国人の採用などにより、多様な人材が活躍しています。

主な活動

- 女性管理職の登用 ■ 短時間社員制度 ■ 在宅勤務制度 ■ 外国人新卒採用
- 障がい者採用 ■ 海外研修生派遣 ■ 社員の家族による職場見学会
- 次世代育成支援 ■ 社員誕生会

TOPICS ● ダイバーシティの推進

誰もが「おもしろおかしく」働ける職場環境を実現するため、ワークライフバランスを考慮した勤務形態を採用するとともに、人事制度の基本方針である「オープン&フェア」に基づいて能力、実績、取組姿勢、目標達成プロセスなどを評価基準に、人材登用を行っています。

グローバルに企業活動を展開する中、管理職に占める女性の割合をダイバーシティ推進の重要指標としてとらえ、今後も多様な人材の活用に努めます。

【女性管理職数とその割合】

	女性管理職数	管理職に占める割合
国内4社	8名	2.7%
海外主要15社*	74名	18.0%

*財務報告に係る全社的統制対象会社

社員の安全・健康・快適職場の確保



活動方針

私たちは、すべての事業活動のプロセスにおいて、人の安全・健康の確保を最優先に考え、社員への意識啓蒙や個別のアプローチを積極的に行い、こころとからだの健康づくりを推進します。

活動の内容

HORIBAの大切な財産である社員一人ひとりの人生を充実したものにし、明るく活気ある職場づくりを推進するため、2012年5月、経営トップより「こころとからだの健康づくり」を宣言し、これに基づいて安全衛生に関するさまざまな取り組みを実施しました。

「こころとからだの健康づくり」宣言 (2012年5月7日)

HORIBAグループは社是「おもしろおかしく」の下、生きがい、働きがいを持ち、充実した人生を過ごすために、一人ひとりの従業員の心身の健康を大切に、明るく活気ある職場づくりを推進する。

(株)堀場製作所 代表取締役会長兼社長

堀均 厚

主な活動

- 経営トップによる職場安全パトロール ■ 健康管理室の設置
- 各種健康診断・保健指導 ■ 産婦人科医によるセミナー開催
- 社員食堂による地産地消の推進 ■ 安全・防犯講習会 ■ 自衛消防隊による訓練

TOPICS ● 「こころとからだの健康づくりプロジェクト」発足

経営トップによる宣言を受けて、具体的な行動計画を検討する「こころとからだの健康づくりプロジェクト」を発足させました。プロジェクトには、労働安全衛生、健康管理、福利厚生各担当部門に健康保険組合、労働組合が加わり、さまざまな立場から、企業活動における心身の健康増進について議論し、実行に移しました。

「こころとからだの健康づくり」に関する行動指針 (概要)

「3つの予防」を推進

- 一次予防 心身の健康増進と病気やケガの発生予防
- 二次予防 病気やケガの早期発見、早期治療、重症化予防
- 三次予防 病気やケガの発生時、業務復帰後の再発予防、本人と職場の不利益を最小限に

「4つのケア」を強化

セルフケア、ラインケア、社内の健康管理スタッフによるケア、事業場外の専門家によるケア

TOPICS ● HORIBAファーム誕生

2012年4月、滋賀県高島市に「HORIBAファーム」が誕生。ブルーベリーを中心に季節野菜の無農薬有機栽培を開始し、2012年は社員とその家族、延べ209名が農作業に参加しました。HORIBAファームでの農作業体験を、社員と家族のこころとからだの健康づくりの一環とするとともに、社員とその家族の手で育て収穫した野菜や果実は、社員食堂や研修所などで活用していきます。



HORIBAファームでの作業風景

社会とともに

環境問題の予防・改善



グローバルコンパクト原則 >> 7,8

倫理綱領において、環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的・積極的に活動することを定めるとともに、統合マネジメントシステムにおいて環境負荷バランス、エネルギー消費、廃棄排出など環境負荷低減に寄与する仕組みを確立しています。

活動方針

私たちは、関連法規を遵守し、統合マネジメントシステムにより環境の改善・保護のための自主基準を設け、最大の努力を払っています。また、最良の環境保全システムの取得を推奨しています。

活動の内容

統合マネジメントシステム方針の下、安全で高効率なクリーンファクトリーづくりを推進し、地球環境の保全に貢献することを目的に省エネ・省資源活動を展開しました。2012年の環境負荷は、グループ会社で事業所増築という大きな増加要因がありましたが、日本国内の電力消費は3%増に止まり、ガス消費は5%減という結果になりました。また金属材料、梱包材料等の資源消費が前年度に比べ減少しました。

主な活動

- 新素材・新エネルギー・次世代自動車研究開発向け機器や環境監視システムなどの普及
- 生産活動における省資源・省エネルギー化 ■ 排水監視 ■ 化学物質管理 ■ 廃棄物の削減

製品における環境配慮



グローバルコンパクト原則 >> 9

倫理綱領において、世界の人人の生活の向上および地球環境に資することを定め、新素材、新エネルギー、次世代自動車研究開発向け機器や環境監視システムなどの普及に努めています。

活動方針

私たちは、長寿命、省エネルギー、再資源化、分解性、処理容易性など、ライフサイクルを考慮した製品を社会に送り出すために、社内基準をクリアした製品を環境適合製品と位置づけ、新製品開発時に適用しています。

活動の内容

HORIBAグループの製品は、部品選びから梱包に至るまで、環境負荷を最大限に減らすよう設計されています。2012年に誕生した新製品、(株)堀場製作所12製品、(株)堀場エステック8製品、(株)堀場アドバンステクノ5製品が環境適合製品として登録されました。

主な活動

- 環境適合設計の評価 (減量化、長寿命化、再資源化、分解性、処理容易性、環境安全性、省エネルギー、情報提供)

TOPICS ● ポータブルガス分析計が、日経地球環境技術賞を受賞

第22回「日経地球環境技術賞」が発表され、HORIBAのポータブルガス分析計PG-300が優秀賞に選ばれました。発電所や工場内で持ち運びができる小型のガス分析計PG-300は、窒素酸化物(NOx)や二酸化硫黄(SO2)など、公害物質として関心の高い5種類の成分の濃度を、1台で同時に、かんたんに測定することが可能です。また従来品に比べ、20%の軽量化に成功し、消費電力の軽減も果たしました。



ポータブルガス分析計



日経地球環境技術賞表彰式 (2012年11月7日)

地域・社会との対話



活動方針

私たちは、地域社会との交流を主体的・積極的に行い、密接な連携と協調を図ることで、良き企業市民としての役割を果たします。

主な活動

- 環境出前授業の実施 ■ 地域イベントへの参加 ■ インターンシップ生の受け入れ
- 地域環境保全活動 ■ 東日本大震災への対応 ■ チャリティー活動 ■ 通勤路ごみ調査

TOPICS ● ハリケーン「サンディ」義援金

2012年10月29日、米国ニュージャージー州南部に上陸した過去最大級のハリケーン「サンディ」により、同州は大きな被害を受け、ホリバ・インスツルメンツ社(アメリカ)でも、数名の社員が自宅や自動車に浸水被害を受けました。国内HORIBAグループでは被災者支援のための募金を社員に呼びかけ、ニュージャージー州の被災者救済基金に4万ドルの義援金を寄付しました。



ハリケーン「サンディ」被災者救済基金理事長のMary Pat Christie さん(中央)と当社現地責任者(2013年4月の感謝式典にて)

独自性のある情報発信



活動方針

私たちは、分析・計測業界の発展に向けたリーダーシップを発揮するとともに、分析・計測機器メーカーならではの視点から、分析・地球環境への関心を呼び起こすメッセージを広く社会へ発信します。

主な活動

- 新聞・雑誌等への企業広告 ■ 環境・自然・宇宙・科学情報サイト「Gaiapress(ガイアプレス)」

TOPICS ● HORIBA カレンダーが世界最高峰の国際カレンダー展で優秀賞を受賞

HORIBAでは企業カレンダーを「365日メディア」ととらえ、多様な地球の生態系を見つめることが本当の環境保全につながるという思いから、毎年1つのテーマにもとづいて、365日すべてに違う動物や植物のイラストが登場するユニークなカレンダーを制作しています。

ドイツ・シュツットガルトで開催された第63回「国際カレンダー展」に出展した2013年のカレンダー「憧れの翼」は、世界各国で高い評価を受けた約1,000点の中から、初めての優秀賞"Excellent calendar"を受賞しました。また、日本の「第64回全国カレンダー展」でも金賞と特別賞を、「第34回日本BtoB広告賞」では金賞を受賞しました。



2013年HORIBAカレンダー「憧れの翼」



CSR活動の詳細なデータは、ウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.horiba.com/jp/gaiareport/>

HORIBA Gaiareport

検索

ガイアレポート
Gaiareportとは

ガイア
Gaiaはギリシャ神話に出てくる大地の繁栄と自浄をもたらす地球の母なる神です。分析計・環境計測機器メーカーであるHORIBAグループは、分析・計測事業で持続可能な社会の構築に貢献したいと考えています。この決意を込めて、当社のCSRのコミュニケーションツールとしてのホームページを「Gaiapress(ガイアプレス)」、CSR報告書を「Gaiareport(ガイアレポート)」とそれぞれ命名しています。HORIBAは分析・計測の目で地球環境を見つめています。

くわしい情報はWEB版データ集で

CSR活動の詳細なデータはWeb版として公開され、より便利に使いやすくなりました。興味のあるキーワードやカテゴリーから検索すると、関連する情報をまとめて閲覧することができます。

くわしくはWeb版データ集のページをご覧ください。

HORIBA Gaiareport

検索

<http://www.horiba.com/jp/gaiareport/>

HORIBA
Explore the future

株式会社 堀場製作所

〒601-8510 京都市南区吉祥院宮の東町2

TEL: 075-313-8121 (代表)

FAX: 075-321-6621

URL: <http://www.horiba.co.jp/>

お問い合わせは、コーポレートコミュニケーション室まで

●ホームページでの開示情報

環境・社会活動 → <http://www.horiba.com/jp/social-responsibility/>

IR情報 → <http://www.horiba.com/jp/investor-relations/>

Gaiapress(ガイアプレス) → <http://gaiapress.horiba.com/jp/>

紙の使用を大幅に
削減しました

「Gaiareport(ガイアレポート)」は2009年版より冊子版とWEB版で構成しています。これにより冊子に使用する紙の量を大幅に削減することができました。内容は堀場製作所のCSR活動のエッセンスをぎゅっと凝縮し、より多くの方々の手にとっていただけるものになっています。



この印刷物は、「計画的に管理された森林」の木材を利用したFSC認証用紙を使用し、琵琶湖の環境保全活動を支援する寄付金付印刷用紙びわ湖環境ペーパーを採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキを使用し、印刷は有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。更に製造過程で排出されるCO₂をCOJを通じカーボンオフセットしています。